

今まで一度も鍼や鋤を握つたことのない婦人との間に何でも相違ありません。而も其結果として可憐な花が咲いたり、美麗な葉が出たり見事な實が熟したりするのですから此味は解すれば解するだけ愉快を覺えるに相違ありません。而も其結果として可憐な花が咲いたり、美しい咲く成つて何故早く園藝を始めなかつたのであらうと嘗て何様に成らるゝことと思ひます。而も其成績品を親戚や知友への贈物とし或は植物生育の状態を知りて智識を研ぐの料とするなど意外の趣味と實益があるものです。我國の婦人には兎角引込み思案のものが多うと思ひますが、併し又事に臨んで敢爲遂行の氣象に富で居ることは今更申す迄もないのですから、實地に園藝の試験をする積で差し清潔の上に優等の様な心地するから、何となう美味に感ぜられます。何は兎もあれ斯ういふ風のものが実行を始め追々に経験を積み熟練を重ねる

に従つて、六ヶ敷ものを作り珍しいものを植るごとにとすべきです今は丁度園藝着手の好季節だから、此機會を失してはなりません。

(おはり)

保育叢話 (承前)

光藤夫人

鳥獸を飼養し植物を栽なる事の子供に與ふる利益子供は元來動植物を好み之をいぢる事を樂みとする傾向がある様に思はれます。殊に男兒は空に飛ぶ鳥を追ひ、道を走る犬猫を見ましては、一寸立止まつて眺める位に趣味を持てる兒がある様で御座います、春夏などの蟲や鳥の多い頃には庭に飛ぶ蝶々を帽子で探る爲めに、かけめぐり、トンボを釣る爲に蟬を探る爲めにモチを竿の先頭につけて庭園から野外にかけずり廻るのであります。児等の熱心なる事はよし炎熱やくが如く、汗ダラダラになりて、眼の落涙むまで疲勞しても、少し

厭はず、蟬の泣くのを聞いては一生懸命竿を探して之をねらふのであります。女兒は少し趣が違ふ様で御座いまして、蟬を取るにしても、トンボを釣るにしても、男兒程の熱心はないのであります。寧ろ花咲く野邊に草を摘み、ツクシを收る方が樂みが多い様であります。之は或は男女兩性の異なる點かも知れません、將來男剛に女子柔なるは已に其の天性であるのかも知れません。男兒が蟬取りに野外に出ますれば妹は蟬を入れる袋を持ちて、之についていつて草花をつんで居ります、されど之は勿論男女幼少よりかかる傾向を有するといふ丈で、決して男兒は動物に、女子は花摘みをのみするといふわけではありません、只かゝる傾向を持つて居るといふ丈であります。

田舎の廣々とした所では、子供が門外一步已に鳥あり、蝶あり、草あり、花ありといふ便利がありますが、この都の中では工場や、商店や、宏壯なる家屋は澤山ありますが門外一步只いらかを並ぶる軒と大路小路に足る馬車、自働車、電車の紅塵にまみれて進み行くのを見るばかりで、青々とし

たる樹木や、研を競ふ花は、とても目に映しません。だから餘程周圍の感化を受けて子供が自然を離れて人工的に傾き過ぎた人間は其の品性が下品に赴き易い誘惑が多い様であります。品性が下品になりますと高い人格の人間は作り得るに六ヶしいかと存じます。どうしても人間は、競争の場裡に立ちて、平和の戦争をつゝけると共に、一方には自然の花に心を寄せ、或は月に、或は鳥に、或は雪に心ない草木に心を慰め、思を寄せて、しづかに曠大無邊なる森羅萬象を楽しむといふ事が必要であると存じます、人生の激烈なる競争場裡に於て、或は得意の時もありませうが又時には憤怒を洩らすによしない様な場合も必ずあるであります。此時もし其の眼中に、箱庭に咲ける美しい花でも、青々とした松柏でも映じました時に、之を看過すれば、其れ丈で御座いますが、之れをしも一種の趣味を以て見ましたならば、果していかに感するで御座いませうか、ア、嵐は吹くも、雪降るも、彼の樹は依然として、彼れ自身の特色を

發揮するにつとめて居るではないか我身萬物の靈長といはれて、尙且つかる些事に煩悶し憤怒するとは、いかに其の心の幼稚なりし事よ、ア、耻し、心ない草木の笑を招く様など、そぞろに其の草木を模範として、我が身心を修養する材料となる事もありませう、之等は只一例に過ぎませんが必ずこの自然の感化を受ける事が多いのであります。ア、其の自然に遠かる都生活は一方益あると同時に其の損失も少くありますまい、無論一利一害は數の免れざる所と申しますれば、マ一此都生活をするものは、暇を見出して自然に接すべく田舎に遊びて、其の風景を樂み浩然の氣を養ふ必要があると同時に、毎日往める我が家にも成丈樹木を植え、動物を飼養することが肝要かと存じます、殊に子供多い家などで出来得る限り動植物をおいて、其の児をして、自ら世話をしめる事が大切かと存じます、鳥でも、兎でも、飼養してよく幼児に世話をさせますと色々利益がある様に思はれます。

第一、毎日子供に鳥の出し入れやら食物を與へる事をさせますと、親が子を育て、愛育すると同じ様に、幼児が我が飼養せる動物を愛するといふ念が起ります、我が家の動物を愛するの念はやがて隣家の鳥を愛するの念となります、となりの鳥を愛するの心はやがてすべての鳥を愛するといふ念となります、こゝに於てか動物虐待の罪悪を説かないでも、彼は自然に動物を愛する様になります。第三、實を得て樂む事、平素の鷄卵の食卓に上るときは児等は何等の趣味も起らないで、食ふのであります。が、自ら手を下して之を愛育し、毎日毎日の卓上に上りし時、卵の身體に慈養多い事を言ひきさせますと、子供は言ひしられぬ樂みと趣きを以て之を賞味し、益々この鳥を愛育しやうとの念を鼓舞します。

第四、児をして父母の鴻恩をしらしめる事が出来ます、時々児童は遊びに耽りて、鳥獸の世話を等

閑にする事がありますと鳥獸はしきりに鳴いて食を求める事があります或は油斷して他の強い動物の餌食となるんとする様の事があります、此の機会をはづかず、子供等によく訓戒するのであります、お前達が世話を怠ると鳥はどうなります、マーお前達に乳や御飯を與へて愛育する父さん母さんが其の世話を怠つておいたならば、お前達は無事に生育する事が出来ますか、お前達の空腹でつらいのも、鳥の餌がなくつてつらいのも、少しも變りはありません、お前達が危険に逢つた時親が之を救はなければお前達はどうなりますか、それと同時に強い動物の爲にツケネラハレ居る鳥をお前達が油斷をしたならばどんなになりますか、お前達のよく届いた親切な世話がありてこそ鳥は無様の心を碎き骨を折つて親切に世話をすればこそお前達は人々に生育する事が出来るのであります、之を思へばお前達は必ず毎日父母の御恩を忘れて我儘ばかりするものではありませんよく父様母様の鴻恩をしりて、鳥が卵をしてお前達を喜

ばせる様に、お前達もよく勉強してよい子といはれ成長の後には立派な人間となりて父様母様を喜ばせなければなりません、といふ様によい訓戒の材料となるのであります。

動物已にしかりて、植物とても同じであります、美しい花を開いて児の丹精の勞に酬ひ、よい研究の材料となり心神修養の好材料となり、不淨なる空氣を新鮮にします等其の子供を益する事人生を利する事が多いのであります。』

幼兒成績優等の故を以て賞する事の過度ならぬ様注意する事

幼にして神童、中年に至りて、凡人となるとの諺は、よく耳にする事が御座いますが、栴檀は二葉より芳ばしいとか、大抵人間一生涯の基礎は二葉の頃即二三歳の頃に定まるのであるとか申します、一寸此の二例は予盾して居る様に思はれます、皆様いかで御座いませうか、私は之を次の様に解釋いたして居ります、或は間違つて居るのかも知れません、識者の高教が仰ぎたいので御座

いします。
 後者の栴檀は二葉より芳ばしいとは千古の金言であります。凡そ其の児が一生涯の間に環境の物事を知る事の多き生後一年半頃より、三年頃までが最も烈しい力を以ては居ますまい、見るもの聞くもの殆んど彼等の智識とならぬものはないかと思はれる位で御座います、素より複雑な心理作用はありませんが、苟も彼等の心身を刺戟するものは死んど、この幼兒の智識とならぬものはないかと思はれます、昨日やうやう一語を覚えしと思ひしに、今日は其二語三語、日一日と智惠づく事のいかに目につきますかは、子を持たる親御が皆實驗なさる所で御座いません、品行論の中に入生れて、十八ヶ月より三十ヶ月に至るまでに外界の物事を知る事は其の他一生に知り得る智識よりも多いとかいふてあります。が丁度此の邊の消息を洩らしたので御座いません、母親は殊に此の際に氣をつけて幼兒の保育の任に當らなければならぬ様に思はれます、三つ児の心六十までの俗語も岐度此の邊の意味で御座います、どうしても

人間一代の基すべての基礎はこゝに作り上げらるゝ事と思はれます、よく幼時遅頗なりし子が生長して何でも機敏になつたとか、幼時成績の悪い児が生長して立派な人間になるとか、幼時神童といはれし子が二十歳以後に至りまして凡人となるといふ様な例は數ふるに違はない程澤山あります。ソレは或は幼時遅鈍でも其の短所を知りて其の教育法宜しきを得ますれば或は機敏となる事が出来ませう、或は幼時成績の悪い児が其の教養法宜しきを得て、刻苦勉勵立派な人になる事も出来ませうが、之等は何も幼時己に出来上りし人間の基礎が轉覆したものではあるまいと思ひます、只教育の結果、又自ら感奮して、自分を教育する事もあります、或は彼より教育さる、事もありませうが兎に角教育の結果の現はれたものと見て差支ないで御座いません、之と同時に幼にして神童云々も只教育の結果であらうと思はれます、こゝに於てか幼兒成績優等なる児に對して過賞はよくなき事と存じます、幼にして神童が過賞の結果一生涯を誤りましたのも時々見受けた事が御座います。

私は嘗て或る學校で尋常四年生になる、成績の最優等で、しかも身體壯康眉目秀麗の神童を見ました、四年間続けて首席を占め、先生の受けは勿論他の衆多の児も皆一目も二目もおいて居りました、實に全校の模範生とし、賞揚されたのであります、今已に血氣盛りの青年となつて居りましたが、凡人に及ばぬ冷落したとか、ほのかに聞きました、無論之は教育の仕方が悪かつたに違ひありません、餘り出来る／＼が評判になつて周囲の人から賞められると、何も辨のない子供心に自負の念が增長しまして、満心は日一日と盛りになりゆき、終には自分ほど偉い人間はないと思ひ出します、こうなりますと人が馬鹿に見えまして、他人の言ふ事など餘り耳に入りません、そこでからは嫌はれる様になります、ダン／＼自暴自棄に陥りて來ます、ついに普通の人には及ばぬ様になるのもあります、之等は其の責が學校にあるのか、家庭にあるのか、又は外界にあるのか分りません、いづれにしましても、教育を誤つたに達りません、そこで母親は又こゝに大に注意

がいると思ふのであります、折角今迄丹精して、やうやく人に賞められる丈の成績を取る様になりました、マー安心など、思ふが最後、其の後に其兒に及ぼす感化がわるくなる事を忘れてはなりませんので、安心と思ふのが害があるかと申しますれば、母親が安心と思ふのが油斷の初步になります油斷が歩を進めすれば必ず惡徳を其の児に植ゑ付けます、なぜならば、つい子供を賞める事が度に過ぎる様な場合が起ります、厳にせでは叶はぬ場所でもつい女親の弱い心がらマーよく出来るから、少々位は過失は構はない、など、思ひ出します、それが少しづゝ一つ一つと段々重なりましてついには我儘なのに仕立上げる事もあります、満心ばかり増長させるのであります、出来損ひの人物となつて仕舞ふのであります、私は最も恐れるのであります、人様から我が子供をほめられます時誰も悪い心地はしないと申ますが、私は裏心少しも善い心地かいたしませぬ、嬉れしとも何とも思ひませぬ、或はそれは心を偽ると仰の方が御座いましたが、マー断ちわつた腹

のなかを目にかけても宜しい、ホントに嬉れしいなどの感じは少しも起らないのです、なでならば之女育児に丹精して、之女の結果の現はれますのは、理の當然と信じて居ります、只恐れます、このほめられる言葉がはしなく子供の耳に入り、そして自負の心の種となりはしまいか「或は満心を引き起しあはせぬかしらんと、人がすべて向上しますのは、大抵自分が心に未だ及ばぬ、私はどうしても出来ない」と思つて、今少し出来る様に、せめてあの人物になどと色々一心不亂に我が又はぬ所を自覺して居る事が、進歩の最も甚しい時の様に思はれます、子供でも矢張そうであらうと存じまして、少しでも外からアナタはよく出來るなど、言はれる時に子供心の正直にすぐ真に受けて、自分はよく出来るのかなど、思ひましたならば、其處から進歩が止まるかと恐れます、どうか子供が幾らよく出来るのかなと、思ひました子供に知らざる様にして、いつも及ばん、出来ないので、自分はなぜ一出来ないだらう位の元氣で勉強させたいと思ふのであります、ダカラ私は

子供が少し位成績のよろしい場合が御座いまして、餘りほめはいたしません、マー宜かつたが、アナタは自分がよく出来ると思ふと大變な間違、只外な人が餘りよく出来なかつた爲に、アナタが少しよかつた計りでありますぞ、まだ外によく出来るのは澤山あります、コレカラがほんとに勉強する時は先生なり、父さんなりのおかけですよ、自分をえらいなど、思つたら大間違、アナタが少でも出来がよかつたといへば、先生や父様のお骨折ですから、之からもよく仰て勉強なさい、私の兒に對するほめ言葉は此位な度で御座います。』

天竺牡丹の栽培法

千葉 晚香氏談

近頃一般の家庭で、園藝植物を栽培することが流行となつた、中にもダリヤ、即ち天竺牡丹の栽培は極めて容易で單に植付けたけれども相應に花が